

適期中干しで品質向上

田植後1ヵ月後に中干し溝切を行います。

■中干しの目的

土壌に酸素を供給し、根を活性化させます。また、過剰な分けつを抑制することにより、風通しを良くし、光が株元に届きやすくします。また、モミ数が制限されることから、粒厚が厚く、整粒歩合の高い米ができます。軽く足跡がつく程度の中干しを心掛けてください。

中干時期の莖数(コシヒカリの目安)

栽植密度 (／坪)	50株	60株	70株
1株当たりの莖数	20本	17本	14本

5~10m間隔で溝切り(写真 60株植え)



■溝切り

- 溝切りを行うことで、入水・落水がスムーズ（効率的な水利用）に行え、胴割米の防止と粒厚の向上につながります。
- 確実な溝切りにより、地耐力が増し落水時期を遅らせることができるので、今後のカドミウムの吸収抑制（湛水管理技術）に効果があります。
- ▶ 中干し以降から幼穂形成期までは、常時湛水せず、土の表面が見えたら水を入れ、これを繰り返します。排水口の板は必ず閉めて、水深3cm程度となれば、必ず水を止めます。

麦・大豆栽培につながる溝切り作業

水稲跡に麦を作付けされる場合、溝切りした溝が、麦の播種前の排水対策にも有効に活用されます。収穫時にコンバインでつぶさないようにしましょう。



水稲カドミウムリスク対策情報 「湛水管理」に向け、適期作業を!!

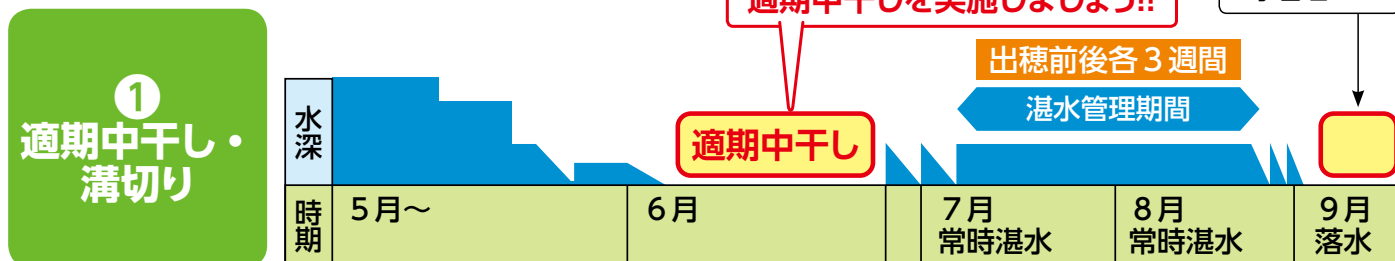
出穂前後各3週間の時期になると湛水管理作業が始まります。

湛水管理は、玄米中カドミウムの吸収を抑制するための重要な技術です。

今後、水管理・湛水管理がスムーズとなるよう作業の実施をお願いします。

★中干し作業は、地耐力を向上させる唯一の手段です!

田植後約1ヵ月後2週間程度中干しを徹底しましょう



2 畦畔等の水漏れ確認漏水防止

★作付後に、田んぼの漏水状況を見回り効率的な水管理・湛水管理が実施できるよう事前に点検しましょう。

- 排水口の止水板管理
- 畦からの漏水 (ネズミ・モグラ穴からの漏水)
- 低くなった畦からのオーバーフロー
- 構造物・暗渠排水管まわりからの漏水

